

【台風の発生】

台風とは、熱帯地方の海上にできる低気圧のうち、中心付近の最大風速が17m/s以上のものをいいます。台風が近づくと、気象台から台風の強さと大きさ、現在位置、予想進路、中心付近の風速等が発表されますので、情報をよく聞き、風水害に備えましょう。

【台風の強さおよび大きさの区分】

強さの区分	最大風速
強い	33m/s 以上 ~ 44m/s 未満
非常に強い	44m/s 以上 ~ 54m/s 未満
猛烈な強さ	54m/s 以上
大きさの区分	風速 15m/s 以上の半径
大型(大きい)	500km 以上 ~ 800km 未満
超大型 (非常に大きい)	800km 以上

※ 気象庁では毎年1月1日以後、最も早く発生した台風を第1号とし、以後台風の発生順に番号を付けています。
なお、一度発生した台風が衰えて「熱帯低気圧」になった後で再び発達して台風になった場合は同じ番号を付けます。

【一時間雨量の目安】



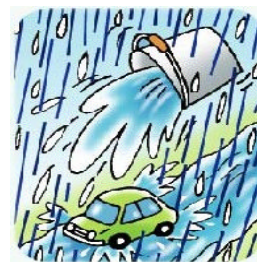
10～20mm

【やや強い雨】ザーザーと降り、地面一面に水たまりができる。



20～30mm

【強い雨】どしゃ降り、側溝や下水があふれ、小さな川の氾濫や、小規模の崖崩れがはじまる。



30～50mm

【激しい雨】バケツをひっくり返したように降り、道路が川のようになる。



50～80mm

【非常に激しい雨】滝のように降り、都市部では地下室や地下街に雨水が流れ込む場合がある。



80mm 以上

【猛烈な雨】息苦しくなるような圧迫感があり、大規模な災害の発生するおそれ強い。

【風と被害の目安】

※風速は 10 分間の平均風速です。最大瞬間風速は平均風速の約 1.5 倍～から 3 倍以上になることがあります。



風速 10～15m/s

【やや強い風】取り付けの悪い看板やタンが飛びはじめる。



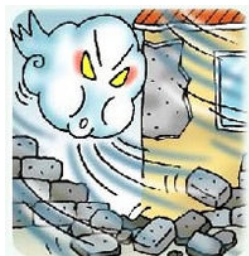
風速 15～20m/s

【強い風】ビニルハウスが壊れはじめる。



風速 20～25m/s

【非常に強い風】鋼製シャッターが壊れはじめる。風で飛ばされたもので窓ガラスが割れる。



風速 25～30m/s

【非常に強い風】ブロック塀が壊れ、取り付けの悪い屋外外装材がはがれ、飛びはじめる。



風速 30m/s 以上

【猛烈な風】屋根が飛ばされ、木造住宅の全壊がはじまる。

【河川の洪水に関する用語】

●指定水位

大雨などにより河川の水かさが増してこの水位を越えると、消防団などの水防関係機関が水防活動の準備に入ります。

●危険水位

警戒水位よりさらに河川の水かさが増し、氾濫の恐れが生じる水位です。洪水予報の発表において用いられ、危険水位は洪水警報の基準となります。

●溢水(いっすい)

河川の水があふれること。

●浸水

物が水につかったり、屋内に水が入り込むこと。

●破堤

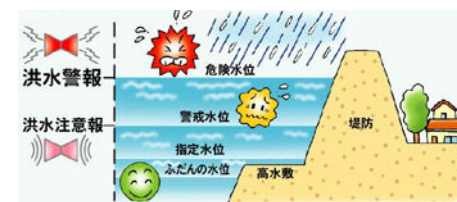
堤防が決壊すること。

●警戒水位

指定水位より河川の水かさが増し、災害の恐れがある水位のことで、河川の警戒にあたる水位をいいます。この水位を越えると消防団などの水防関係機関が出動します。洪水予報の発表において用いられ、警戒水位は洪水注意報の基準となります。

●計画高水位

河川整備計画で定めるその河川の計画流量が流れるときに想定される水位です。堤防の設計等の基準となるものですが、河川の計画上の水位なので、堤防が完成していなければ、この水位より低い水位でも氾濫などが発生する可能性があります。



【地下空間・地下施設等の危険性】

大雨のときには地下街や地下鉄、地下室は大変危険です。浸水の危険があるときは、早めに避難しましょう。また、避難する際、アンダーパスといわれる地下通路は、冠水する可能性が高いので通らないよう気をつけましょう。



1.地上が冠水すると一気に水が流れ込んできます

換気口、採光窓等、思わぬところから入ってくることがあります。また、流れ落ちる水で階段は登れません。



2.地下室では外の様子が判りません

地下室では雨の強さや天候の急激な変化がわかりませんので、普段から危険性を把握して、気象情報への注意が必要です。

また、外の様子に変化があったときは地下室内の人に知らせましょう。



3.浸水すると電灯が消え真っ暗になります

エレベーターは使えません。



4.水圧でドアは開きません

避難する時期を失わないことが大切です。内開きのドアも開きません。